新自然史博物館・
ライフパーク倉敷整備

基　本　計　画

倉敷市教育委員会 ―――――― 令和６年１２月

目　次

第１章　はじめに 1
１　事業計画と基本計画の位置づけ 1
２　これまでの検討経緯 2
（１）庁内検討チームによる意見交換 2
（２）自然史博物館に関する来館者アンケートによるご意見 2
（３）倉敷市立自然史博物館協議会 2

第２章　ライフパーク倉敷整備について 3
１　ライフパーク倉敷の概要 3
（１）経緯 3
（２）立地・アクセス 3
（３）現状の課題 4
２　施設整備の基本的な考え方 5
（１）めざす姿 5
（２）整備方針と整備内容 6

第３章　新自然史博物館整備について 8
１　倉敷市立自然史博物館の概要 8
（１）経緯 8
（２）立地・アクセス 8
（３）現状の課題 9
２　施設整備の基本的な考え方 10
（１）前提（自然史博物館基本構想） 10
（２）新自然史博物館のコンセプト 11
（３）新自然史博物館のめざす姿 11
（４）諸室機能及び面積想定 12
３　博物館活動の考え方 14
４　展示計画 15
５　施設計画及び配置計画 15
６　収集保管計画 15
（１）収蔵庫の仕様について 15
（２）収蔵面積について 15
７　教育普及・生涯学習支援活動の方針 16

第４章　今後の事業展開に向けて 17
１　概算事業費 17
２　事業スケジュール 17

第１章　はじめに

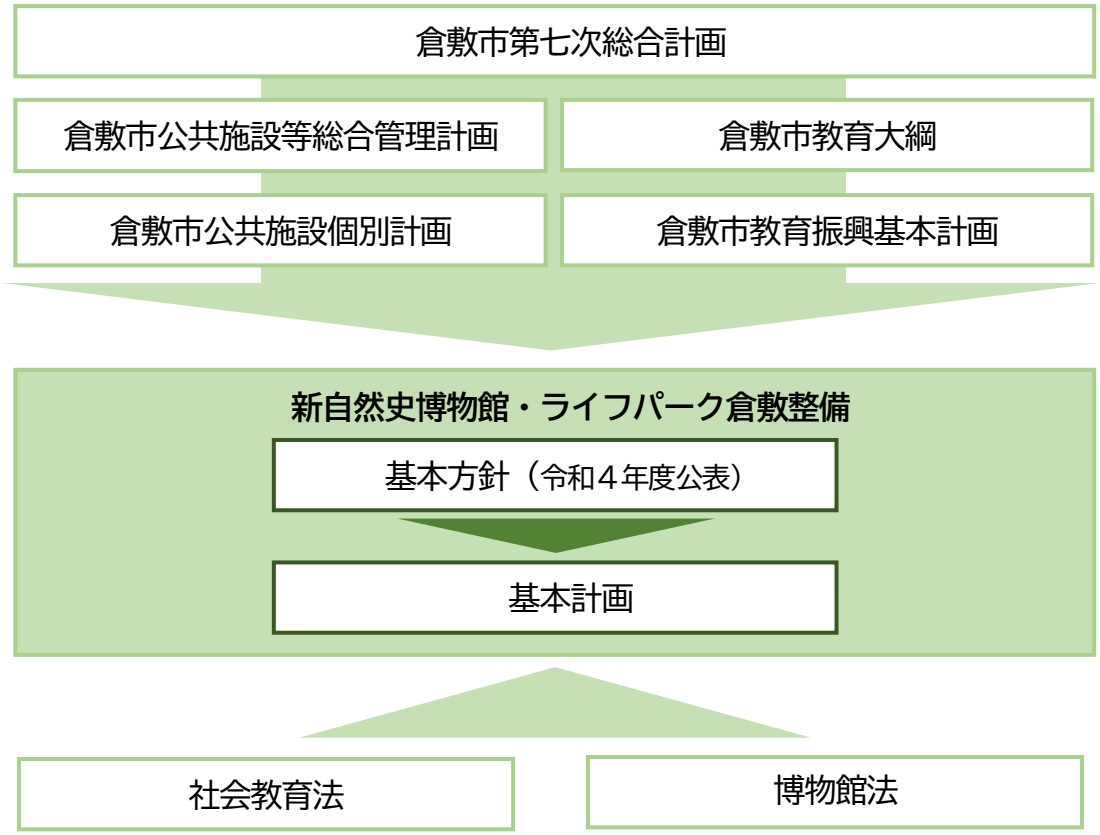
１　事業計画と基本計画の位置づけ

自然史博物館は、「倉敷市公共施設等総合管理計画」（平成２８年６月策定、令和５年３月改訂）に基づき、令和４年３月に策定した「倉敷市公共施設個別計画」において、ライフパーク倉敷に移転し、ライフパーク倉敷と機能を複合化した整備を検討する方針としています。

この方針を受けて、令和４年度に新自然史博物館の整備及びライフパーク倉敷の改修について検討し、整備に関する基本方針を策定しました。

「新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備基本計画（以下、「基本計画」という）」は、基本方針及び上位計画である「倉敷市第七次総合計画」、関連計画である「倉敷市教育大綱」「倉敷市教育振興基本計画」等を基に「社会教育法」や令和４年度に改正された「博物館法」も踏まえて、ライフパーク倉敷を含めた施設全体の計画として策定しています。

●基本計画に関連する上位計画及び関連計画と本事業の位置づけ



２　これまでの検討経緯

基本計画の策定については、学芸員をはじめとした自然史博物館職員による検討のほか、来館者アンケート等も実施し、現状の課題の整理を行い進めてきました。

（１）庁内検討チームによる意見交換

令和４年６月に教育委員会４名、市長部局３名の主に若手職員から構成される自然史博物館検討チームを設置し、自然史博物館の現状と課題、そして今後の取組みについて、調査・協議を経て意見を集約しました。

ライフパーク倉敷についても同様の考えから、令和５年７月に教育委員会７名、市長部局１名からなる検討チームを編成し、調査・協議を経て意見を集約しました。

（２）自然史博物館に関する来館者アンケートによるご意見

令和４年１０月から令和５年４月にかけて、今後の自然史博物館について来館者アンケート調査を実施しました。アンケートでは、求める博物館像として「何度でも訪れたくなる」、「楽しみながら学べる」といった声や「深く学べる」、「知りたいに応えてくれる」などしっかり学べる博物館や敷居が高くない博物館を求める声など多様なご意見をいただきました。

●調査概要

・対象：特別企画展（「倉敷にクジラがやってきた！～海はつながっている～」）、
　　折り紙昆虫展、常設展の見学を目的とする中学生以上の来館者

・実施期間：令和４年１０月１０日（月・祝）～１２月３日（土）
　　令和５年　２月１１日（土・祝）～　４月９日（日）

・回答件数：　５２６件

（３）倉敷市立自然史博物館協議会

令和５年７月に開催した教育関係者や学識経験者から構成される倉敷市立自然史博物館協議会においてライフパーク倉敷リニューアル及び新自然史博物館整備基本方針の報告を行い、委員から収蔵環境の整備や学校園との連携強化等についてご意見をいただきました。

第２章　ライフパーク倉敷整備について

１　ライフパーク倉敷の概要

（１）経緯

ライフパーク倉敷 東側出入口

ライフパーク倉敷は、新市(昭和４２年に、旧倉敷市・児島市・玉島市が合併)発足２０周年を記念し、総合的な社会教育施設として、平成５年４月２４日に開館しました。敷地面積 53,117.32 ㎡、建築面積 9,656 ㎡、延床面積 14,339 ㎡の鉄筋コンクリート２階建、一部３階建となっています。

開館当初は、講座等の開催や施設提供を通じ生涯学習を支援する「市民学習センター」、視聴覚教材の製作、貸出等を行う「視聴覚センター」、教員研修、不登校児童生徒の適応指導や教育相談等を行う「教育センター」、科学・宇宙に触れ、子どもたちの科学するこころを育てる「科学センター」、市内の埋蔵文化財を適切に保護・保存することの大切さ、埋もれた歴史資料への関心を深める事業を行う「埋蔵文化財センター」の５センターからなる複合施設としてスタートしました。その後、視聴覚センターは、平成１３年４月に、「情報学習センター」に、さらに、令和４年４月には、「教育ＩＣＴ推進課」となり、現在は、１課４センターで運営しています。

開館２０周年となった平成２５年８月には、国の登録有形文化財である旧倉敷天文台スライディングルーフ観測室の寄贈を受けて敷地内へ移築、また、開館以来、人気を博しているプラネタリウムは、平成３１年３月に、星数１億個の世界最高水準の美しさを誇るプラネタリウムにリニューアルを行いました。

毎年８月には、各センターが協力して「ライフパークの集い」を開催、延べ１万人を超える方々が参加するなど、市民に親しまれている施設です。

年間利用者数は、平成１４年度の５６万３千人をピークに、毎年約５０万人程度で推移しており、開館２９周年となった令和４年度末の延べ入館者数は 1,365 万人余に達しています。

（２）立地・アクセス

ＪＲ山陽本線倉敷駅の南約９㎞、タクシーで約２５分、瀬戸中央自動車道・水島ＩＣから車で約１５分の距離に位置し、南側は市内最大規模の公園面積（347,000 ㎡）を誇る水島緑地福田公園に隣接しており、駐車場については一般駐車場約４００台、バス専用駐車場１０台のほか、駐輪場約３００台を備えています。

（３）現状の課題

ライフパーク倉敷は、市民学習センター、科学センター、埋蔵文化財センターの社会教育施設と、教育センター、教育 ICT 推進課で構成されています。

そのうち、埋蔵文化財センターは、教育普及活動のための施設更新もなく、市民に向けた施設というよりも、作業や調査研究、収蔵の施設となっています。

埋蔵文化財センターの展示状況

科学センターは、土・日・祝日は県内外からの個人利用、平日は、県内外の学校等の遠足先としての団体利用が高くなっていますが、団体利用の場合、休憩や荷物置場とする会議室等が不足している状況です。

科学センターの展示状況

現状は、１０台分のバス駐車場の他、北入口付近に２台分の臨時バス駐車場を設け、タイムスケジュールを作成し駐車バスの入れ替えなどを行い対応していますが、対応しきれないケースも生じています。

また、施設全体の導入エリアであるロビーは、来館者の「憩いの広場」、「ギャラリー・ホール」、「情報発信基地」など、多くの役割をもつアトリウムとして、二層吹き抜けの開放的な空間である一方、案内表示等が十分になく、目的地への動線がわかりにくいことが課題となっています。

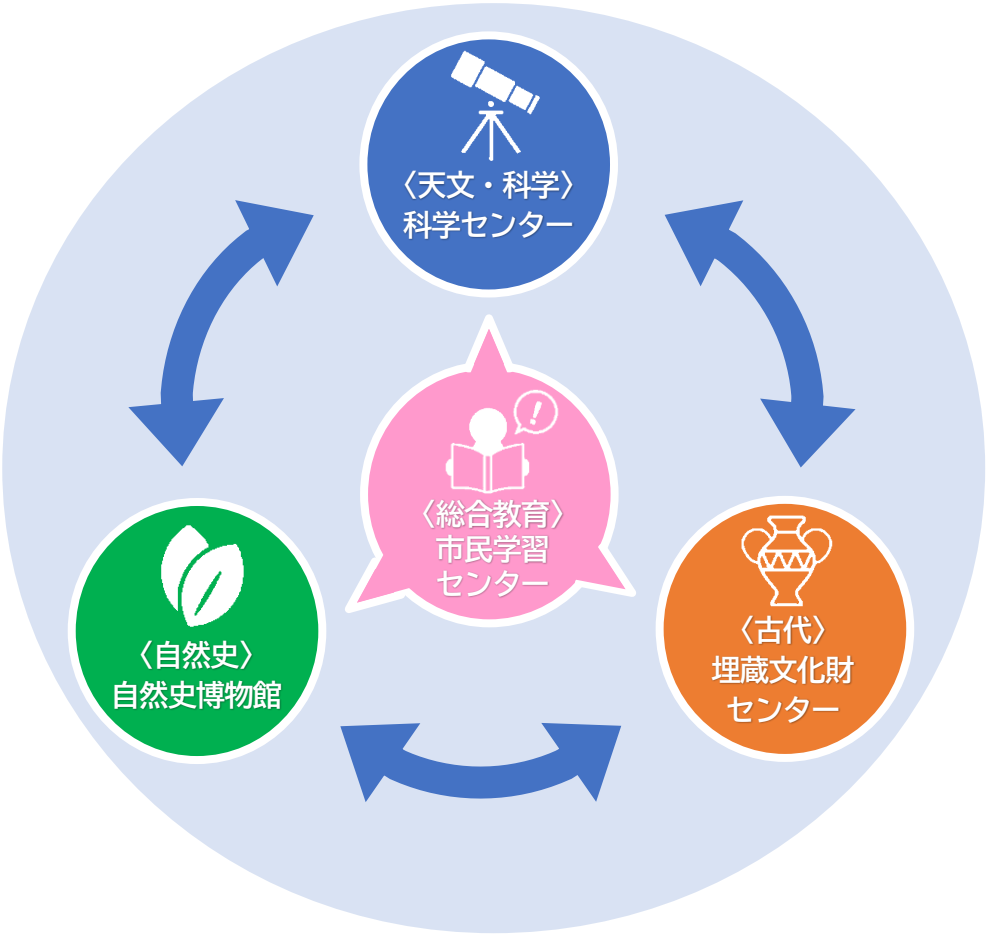
２　施設整備の基本的な考え方

（１）めざす姿

ライフパーク倉敷のめざす姿については、一体感の醸成や施設全体の回遊性の向上など現状の課題や生涯学習の拠点施設としての役割のほか来館者アンケートによるご意見等を踏まえ、基本方針を踏襲し次のように設定します。

市民学習センターを中心として
科学センター、埋蔵文化財センター、自然史博物館が、
それぞれの役割を果たしながら連携し一体となって
ライフパーク倉敷は、
あなたの「**知りたい**」に応える「**知の拠点**」をめざします。

知の拠点



（２）整備方針と整備内容

施設整備にあたっては、現状の課題を踏まえ、ライフパーク倉敷の敷地全体を俯瞰し、ロータリーや駐車場、植栽の再配置を行い、既存の３施設（市民学習センター、科学センター、埋蔵文化財センター）と新自然史博物館を一体的に整備することで、一体感の醸成を図ります。

また、施設の有効活用の観点から既存のライフパーク倉敷について、新自然史博物館として利用できるものについては、可能な限り活用していきます。

具体的な整備内容は次のとおりです。

ア　市民学習センターの図書室（約４８６㎡）の一部を新自然史博物館のエントランス、受付、事務所、特別展示室として活用します。なお、自然史博物館として活用しない図書室部分は、図書コーナーとして自然史博物館部分と壁などで区切ることなく、引き続き、予約資料の貸出及び図書館資料の返却などを行い、誰でも気軽に本が閲覧できる場所とします。

イ　市民学習センターの団体連絡室兼団体交流室（約１６４㎡）は廃止し、新自然史博物館の工作室、講義室とします。

ウ　４施設（自然史博物館、市民学習センター、科学センター、埋蔵文化財センター）をスムーズに移動できるよう動線の確保、バリアフリー化や、サイン表示の見直しを行います。

エ　校外学習等の団体客が待機・休憩するスペース不足解消のため、市民学習センターの軽トレーニングルーム、シャワー室・更衣室（約２５３㎡）の用途を変更し、団体客が待機、休憩するライフパーク倉敷の共有スペースとします。

オ　市民学習センター、埋蔵文化財センター、新自然史博物館を結ぶ館外敷地部分を団体客の待機スペース等として活用します。

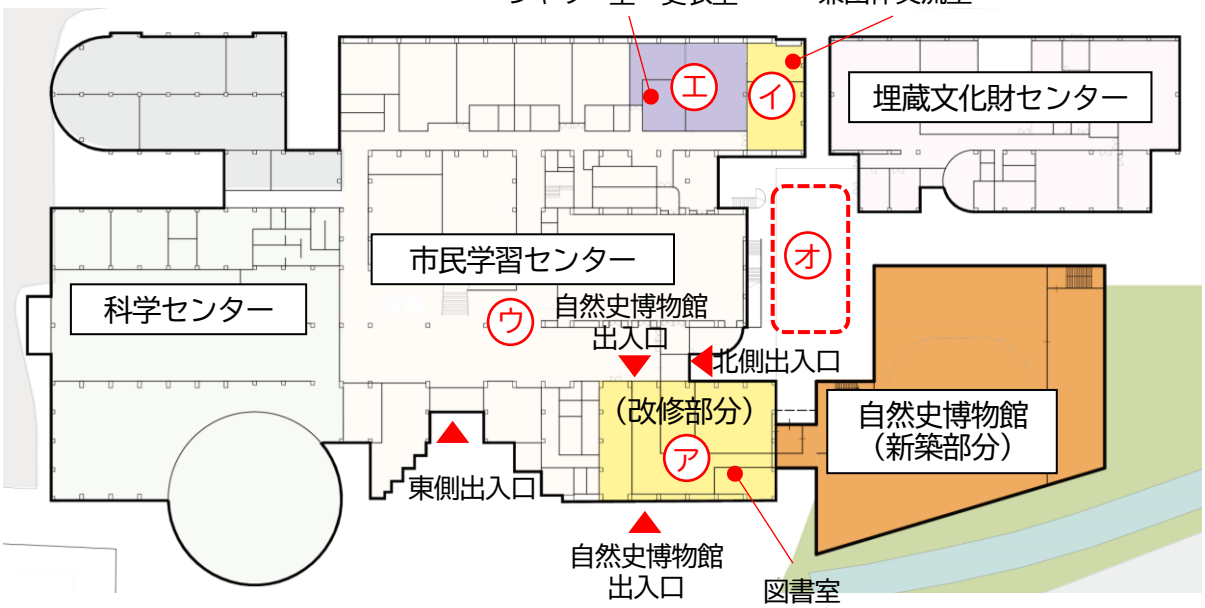
カ　既存のライフパーク倉敷北側出入口前ロータリーは、自然史博物館の建設予定地になるため、ロータリーを東側出入口前のスペースに移設します。

キ　車いす利用者や妊産婦等、歩行が困難な人が利用できるバリアフリー駐車場を東側出入口付近に４～５台程度設置します。

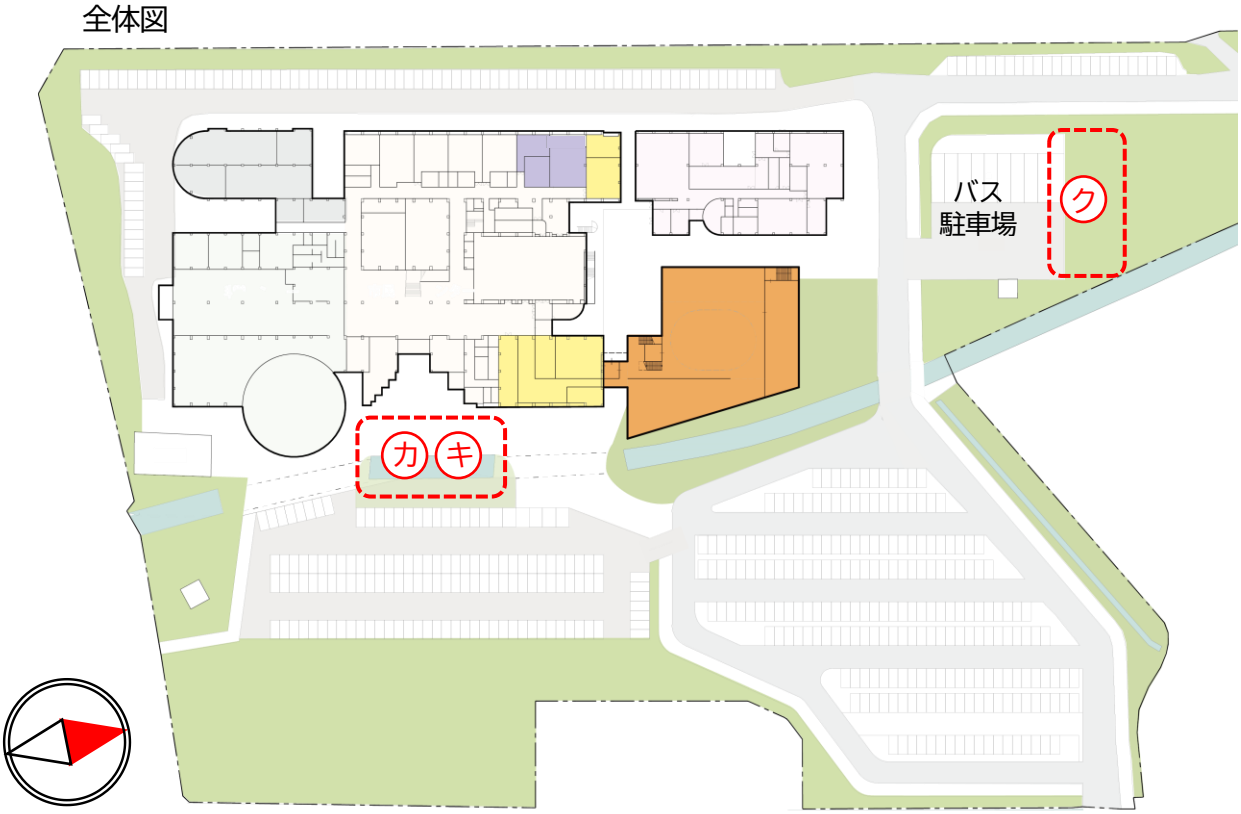
ク　バスを利用して来場する団体利用者の受け入れ体制を拡充するため、北側大型バス駐車場を３台分程度拡張します。

●改修範囲

１階平面図



全体図



■：自然史博物館改修部分　■：自然史博物館新築部分

■：ライフパーク倉敷改修部分

第３章　新自然史博物館整備について

１　倉敷市立自然史博物館の概要

（１）経緯

倉敷市立自然史博物館は、自然史に関する科学について、資料の収集・保管や展示を行うとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与する施設として、旧水道局庁舎（３階建延床面積 3,072.28 ㎡）を活用し、昭和５８年１１月３日に開館しました。

外観

その後、平成５年度には開館１０周年を記念して、建物１階に動くナウマンゾウ母子（パオちゃん＆ナウママ）を展示し、自然史博物館のエントランスとして整備しました。

館内の展示状況

また、平成１４年度から１７年度にかけて、展示の大幅更新を行い、展示の背景を高梁川流域から岡山県全域に拡大しました。

その後、収蔵品の増加に伴い平成２２年度に自然史博物館の一部として大高仮収蔵庫 191.00 ㎡を設置しています。

開館以来、収集保管事業、調査研究事業、展示事業、教育普及事業を４本の柱として、博物館を運営しており、年間の利用者数は４～５万人前後で推移しているほか、毎年１１月に開催する自然史博物館まつりには、１万人前後の来館があります。また、令和３年度には収蔵資料が１００万点を超えました。

（２）立地・アクセス

ＪＲ山陽本線倉敷駅から南へ約８００m、倉敷中央通りに面し美観地区の反対側のエリアに位置します。同じ区画内には倉敷市立美術館及び同中央図書館や、市の観光バス専用駐車場が隣接しています。

（３）現状の課題

開館以来、博物館活動の源である資料の収集保管事業や、柱のひとつである調査研究事業については、着実に進展し今日に至っています。

一方で、もうひとつの柱である教育普及事業については、年月の経過とともに、博物館の利用者や事業の参加者に常連化、固定化が見られたこと、また、社会情勢やニーズの変化に十分に対応できなかったこと等により、展示や事業内容が、より専門的、より愛好家向けへとシフトし、その結果、「より広くより多くの市民のために」という側面が薄らいでいます。

また、進められてきた資料の収集保管事業や調査研究事業についても、情報発信は積極的とは言えず、市民にとって、「顔の見えない」「敷居の高い」「縁遠い」博物館となっています。

入館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による半減期を除き、４万人から５万人超の間で安定しているものの、入館者の内訳を見ると、限られた愛好家等が複数回にわたり来館している状況もあり、来館者の固定化もみられます。

展示については、開館から約２０年後の平成１４年度から１７年度にかけて大幅な更新を行った後は、１７年を経た今日まで、更新ができていません。同じ展示内容が長期間続き、再来館者には新鮮味に欠けることも入館者数の横ばいにつながっています。

駐車場は、主に中央駐車場を利用されていますが、土日等には観光客により混雑することが多く、車での来館が困難となっていることもあり、多くの市民にとって博物館は日々の生活から離れた、距離感のある存在ともなっています。

展示や行事など、博物館の情報が市民に十分には伝わっておらず、博物館に興味や関心が低い市民や、市外・県外在住者などもターゲットと意識し、より多くの方々に、いかに情報を届けるか、そして来館にどうつなげるか、創意工夫が求められています。

特に、博物館活動の柱のひとつである、収集・保管・調査・研究については、「今どんな活動が行われているか」が伝わっておらず、単に収集保管するだけでなく、貴重で膨大な収蔵品や資料を、どのように見せていくか、また活用してもらうかを考える必要があります。

２　施設整備の基本的な考え方

（１）前提（自然史博物館基本構想）

新自然史博物館整備の方針は、昭和５７年１０月１９日に策定した「自然史博物館基本構想」をベースとしています。基本構想では、博物館は「倉敷とそれをとりまく地域の自然を探り、市民が自然を理解し、正しい自然観が得られるような場を提供すること」を目的として、次のような性格を持たせることとしています。

- **地域に根ざした博物館**
  岡山県南部の平野を形成し、文化を育てた母なる川、高梁川の流域と瀬戸内海の自然風土を自然史的に表し、市民が郷土の自然を愛し、自然に親しむ心が芽生える博物館

- **特徴のある博物館**
  数多くの資料を有する昆虫、植物については、特に掘り下げた表現によって、自然のしくみの神秘さ、すばらしさを紹介するユニークな博物館

- **開かれた博物館**
  市民と共に歩み、市民に支えられたみんなの博物館。すべての人が楽しく観覧し、気楽に対話のできる博物館

- **学問に裏づけられた博物館**
  単なる展示を排し、研究と学問に裏づけられた常に前進する博物館

また、展示については、テーマを「倉敷の自然とその背景」とし、次のような展示をめざすこととしています。

- **倉敷は、高梁川と瀬戸内海を背景に発展し、恵まれた自然につつまれている。この自然のおいたちと今の姿を知り、ともに未来を考える展示をめざす。**

- **市民が自然を知り、自然を愛し、それを保護し、ともに生存していく心が育まれるような展示をめざす。**

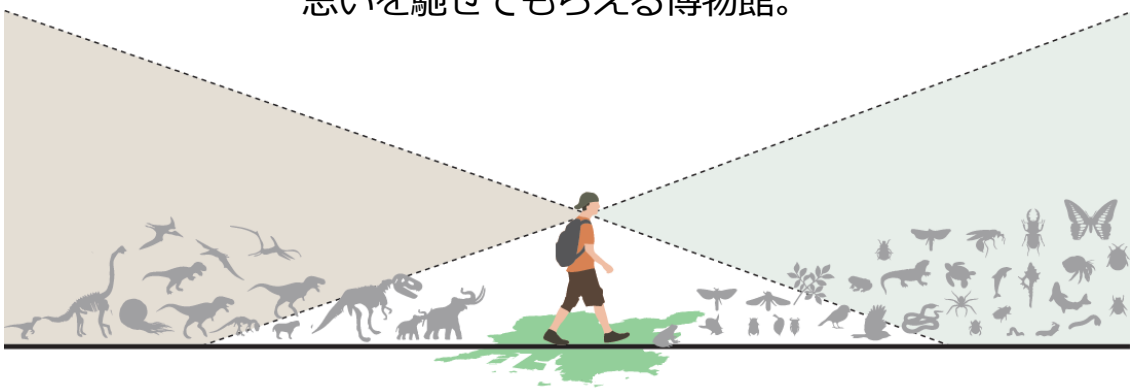
（2）新自然史博物館のコンセプト

市民にとっての「知の拠点」の一翼を担う新自然史博物館として、博物館での体験を通じて、倉敷に暮らす自分と自然史とのつながりを意識してもらうことをめざします。

このことから、今回整備する新自然史博物館のコンセプトを次のように掲げ、展示内容に反映していきます。

倉敷に生きるわたしと４６億年の歴史
地球上に広がる生命とのつながり

４６億年の時間軸と地球上に生きる約８千万種のクロスポイントに
倉敷の今を生きる自分は存在している。
そしてそれらは連綿とつながり関わっていることを感じ、
思いを馳せてもらえる博物館。



（3）新自然史博物館のめざす姿

設立時の基本構想の考え方を軸に、基本方針において「めざす姿」として、「知」「学」「楽」のバランスがとれた博物館像を掲げました。

また、積極的な情報発信を図り「顔の見える博物館」を目指します。

新自然史博物館は「知の拠点」の一翼として
あなたに「**チカラ**」を届けます！！

チ 「**知**」　教養・文化の向上をめざす施設へ
カ 「**学**」　調査・研究の深化をめざす施設へ
ラ 「**楽**」　市民が集い憩うにぎわいの施設へ

（4）諸室機能及び面積想定

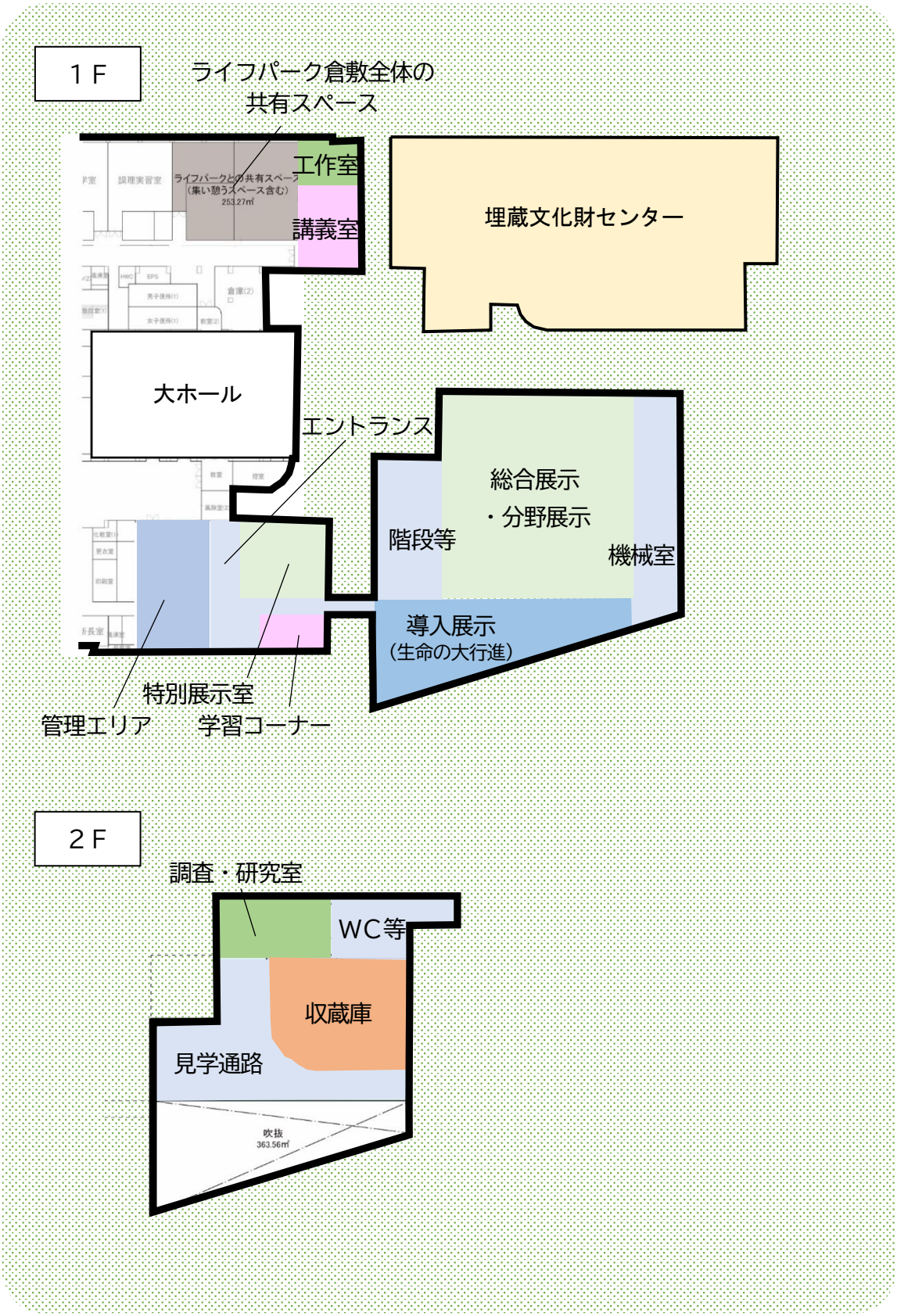
新自然史博物館に求められる諸室機能を以下に整理します。諸室機能は、主に①展示エリア、②調査研究エリア、③収集保管エリア、④教育普及エリア、⑤管理エリア、⑥憩いのエリア、⑦その他（共有部分）の７つの機能別エリアに分類します。

諸室の面積は、現自然史博物館の諸室面積も踏まえ、それぞれのエリアが持つ機能と整備内容を考慮し、新館（新築部分）及び市民学習センター（改修部分）にそれぞれ設定しました。

●諸室面積表

諸室	現博物館	基本計画			備考
		新館（新築部分）	市民学習センター（改修部分）		
			図書室	団体連絡室	
①展示エリア エントランスや常設展示室（生命の大行進、総合展示・分野展示）、特別展示室	970 ㎡	790 ㎡ 364 ㎡	118 ㎡ 140 ㎡		総合展示・分野展示 導入展示（生命の大行進） エントランス 特別展示室
②調査研究エリア 学芸員や市民研究者による資料の調査や研究のための部屋と展示物の作製を行う工作室等	184 ㎡	142 ㎡		68 ㎡	工作室 調査・研究室
③収集保管エリア 大高仮収蔵庫（館外） 資料を保管するための収蔵庫	298 ㎡ 191 ㎡	306 ㎡			収蔵庫
④教育普及エリア 講座やワークショップで活用する講義室やエントランスに併設する学習コーナー	158 ㎡		46 ㎡	96 ㎡	講義室 学習コーナー
⑤管理エリア 事務機能や受付機能を担うエリア	182 ㎡		182 ㎡		
⑥憩いのエリア ライフパーク倉敷全体で共有する休憩スペース			ライフパーク倉敷全体の共有スペース 253 ㎡		
⑦その他（共用部分） 通路や階段、エレベーター、トイレなどの共用スペースと荷解き室や機械室など	1,280 ㎡	871 ㎡			通路、階段、ＥＶ トイレ、機械室
計	3,263 ㎡	2,473 ㎡	486 ㎡	164 ㎡	

●平面ゾーニング（案）


１Ｆ
ライフパーク倉敷全体の
共有スペース
工作室
講義室
埋蔵文化財センター
大ホール
エントランス
総合展示
・分野展示
階段等
機械室
導入展示
（生命の大行進）
特別展示室
管理エリア
学習コーナー
２Ｆ
調査・研究室
WC等
収蔵庫
見学通路
吹抜
363.56㎡

３　博物館活動の考え方

新自然史博物館では、「収集保管」活動や「調査研究」活動の成果である「展示」活動を軸に据えるとともに、展示を入口として展示室の外での「教育普及・生涯学習支援」活動を展開していきます。

各活動の方針は次のとおりです。

ア　収集保管活動

市民の共有財産として、倉敷の自然分野の資料や、関連する資料を収集します。また、資料を適切に管理し、利用者が閲覧できる環境を整えるとともに積極的な情報発信を行います。

イ　調査研究活動

継続的に調査研究を行い、新たな事実や価値を発見し、その結果を展示や教育普及・生涯学習支援活動に活かしていくほか、研究成果の共有や情報発信を行います。

ウ　展示活動

収集保管から調査研究まで行われた資料そのものや、資料に関する情報を常設展示するなどして、１００万点以上ある資料をより多く見ていただける環境を整備します。また、同じ展示内容が長期間続かないために、一定の期間で展示内容を一部更新していくなど新鮮味のある展示を行います。

エ　教育普及・生涯学習支援活動

より広くより多くの市民に学びの機会を届けるため、新規来館者の開拓や事業の多様化を図るほか講座や団体見学の受け入れ、倉敷市立自然史博物館友の会の活動など、館内外の事業を拡充させていきます。また、展示と教育普及・生涯学習支援活動を密接につなぎ、館内から館外へのフィールドへ出かけたくなるようなきっかけを創出します。

４　展示計画

別紙「新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備基本計画　展示計画（案）」参照。

５　施設計画及び配置計画

別紙「新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備基本計画　展示計画（案）」参照。

６　収集保管計画

収集保管活動は倉敷市立自然史博物館協議会からの意見においてもその充実が求められており、適切な収蔵環境を整えることが必要です。その核となる収蔵庫は、新築部分に設置を想定します。また、寄贈品の増加等による資料の保管は、他の施設も併用しながら運用していきます。

新自然史博物館における収蔵庫は、あくまで「来館者に見てもらうため」、あるいはその準備（バックヤード）としての収蔵スペースと位置付けますが、所蔵資料の保管とともに、借用資料の一時保管にも対応するため、耐火性・耐震性・安全性を十分に有する設備とします。

（１）収蔵庫の仕様について

ア　来館者に向けた「見せる収蔵庫」として展示からの延長で室内が見えるようにします。

イ　自然史分野における収蔵資料の特性を踏まえ、収蔵庫棚の仕様設定と分類配置を行います。

ウ　耐火性及び耐震性を確保し、用途を考慮した消火設備を導入します。

エ　博物館ＩＰＭ ※（総合的病害虫管理）の考え方に基づき、虫やカビ等生物被害の定期点検と徹底的な防除が行いやすい空間配置を検討します。

オ　荷解室及び前室とは同じ床高さで水平移動が可能な収蔵庫扉仕様を導入します。

カ　資料動線については、資料の安全管理上、調査・研究室との動線に十分に配慮し、利用者動線やメンテナンス動線と交わらない動線設計を行います。

（２）収蔵面積について

現自然史博物館の収蔵スペースと同等の約 300 ㎡を収蔵面積と設定します。

※　博物館ＩＰＭ：（Integrated Pest Management）
被害が生じるレベル以下に病害虫を減少させ、薬剤に頼らず日常的な管理を徹底することで、博物館等における病害虫による被害を防除する活動

7　教育普及・生涯学習支援活動の方針

新自然史博物館では、生涯学習の拠点施設であるライフパーク倉敷への移転に伴い、教育普及・生涯学習支援活動のさらなる拡充も検討していきます。拡充していく方針としては、次のような活動方針のもと、具体的なプログラムの検討を進めていきます。

ア　既存のプログラムの継続

自然観察会や博物館講座など現在の自然史博物館で行われているプログラムを新博物館においても継続して実施します。

また、団体見学や出前講座など学校園との連携活動や、倉敷市立自然史博物館友の会等と連携した活動も継続して行っていきます。

イ　既存のプログラムの拡充と発展

館内での展示見学に加えて、ライフパーク倉敷周辺の山林等の自然環境を活かしたフィールドワークなど、館外で自然に触れる機会の拡充をめざします。

また、現自然史博物館の課題である近隣駐車場の不足については、ライフパーク倉敷へ移転することで解消することが考えられます。今後、車での自然史博物館への来館者が増えることも考慮し、市民に身近な博物館をめざすため、既存プログラムの規模や対象の拡充を検討します。

博物館に直接足を運びづらい学校等へは自然史や自然そのものと触れる出前講座や貸し出しできる標本展示セットなど博物館外でも自然史の魅力に触れることができるツールの製作・改良を検討していきます。

第４章　今後の事業展開に向けて

１　概算事業費

現時点（令和６年７月）で見込んでいる概算事業費は表のとおりですが、今後も見込まれる工事費や材料費などの動向を注視する必要があります。

項　目	金額（税込・億円）
新自然史博物館の建設・展示整備	２８
既存ライフパーク倉敷改修	
外構整備	

２　事業スケジュール

令和６年度以降のスケジュール（案）は、次のとおりです。

令和６年度（2024 年度）	令和７年度（2025 年度）	令和８年度（2026 年度）	令和９年度（2027 年度）	令和 10 年度（2028 年度）	令和 11 年度（2029 年度）
実施方針・要求水準書等作成	事業者選定	設計・施工、展示製作・現場設置			供用開始

新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備基本計画（案）

倉敷市教育委員会
倉敷市立自然史博物館
〒710-0046　倉敷市中央２丁目 6-1
TEL：086-425-6037 FAX：086-425-6038
Email：musnat@city.kurashiki.okayama.jp